

中国の杭州横浜輪胎、第4期拡張へ

年間生産能力を300万本から410万本に引き上げ

横浜ゴム（株）（社長：南雲忠信）は、中国の乗用車用タイヤの生産販売会社杭州横浜輪胎有限公司（社長：鈴木一郎）のタイヤ工場について第4期拡張を行うことを決定した。約30億円を投じ、現在の年間生産能力300万本を410万本に引き上げ、2011年1月から生産を開始する。

中国市場は今年春以降持ち直しの傾向が顕著で、横浜ゴムの中国でのタイヤ販売実績も前年を上回った。また長期的に見て、中国の自動車保有台数は年率10%以上で増加するものと予測され、タイヤ市場も大きな伸びが期待されるため、今回投資を決定した。

杭州横浜輪胎は2002年1月に設立した中国市場向けの生産販売会社。工場は2003年5月に操業を開始し、以後2005年1月に第2期、2008年3月に第3期の拡張を行ってきた。現在、乗用車用、RV用、ライトトラック用タイヤを、市販向け、カーメーカー向けに生産販売している。今回の第4期拡張工事によって、現在の敷地内での新規工場拡張の余地はなくなる。なお横浜ゴムは、杭州横浜輪胎のほか、蘇州市に設立した蘇州横浜輪胎有限公司でも、中国国内市場向けにトラック・バス（TB）用スチールラジアルタイヤの生産販売を行っている。



杭州横浜輪胎のタイヤ工場図。右奥が第4期拡張の区域

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株） 広報部 担当：石塚
TEL:03-5400-4531 FAX:03-5400-4570

横浜ゴム株式会社 広報部広報・IRグループ
〒105-8685 東京都港区新橋5-36-11 TEL:(03) 5400-4531 FAX:(03) 5400-4570